

Lesson10

代名詞/ できるヤツはみんなこれを持ってるよ

Anyone worth his salt would have this.

英語では **I, some, this** など、**代名詞**が主語になる文が多く使われます。それらの代名詞は**人称代名詞、不定代名詞、指示代名詞**などに分類することができます。そして、これらの使い方に慣れておくことはとても大切です。

もし、“できるビジネスマンの必携アイテム！”などがあったとして、そのアイテムを持っていない人がいたら **Anyone worth his salt would have this.** 「できるヤツはみんなこれを持ってるよ」なんて、教えてあげると良いでしょう。この中でもいくつかの代名詞が使われています。

このレッスンを受講することで代名詞について理解できます。

Topics

名詞/ Anyone worth his salt would have this.

Topic1 人称代名詞

- 格変化
- 一般の人を意味する代名詞 : we, you, they
- 代名詞 it の特別な使い方

Topic2 不定代名詞

Topic3 指示代名詞

Wrap-up

DVD 版では練習問題の解説も行います。



Anyone worth his salt would have this.

Topic1

人称代名詞

人称代名詞とは **I, we, you, he, she, it, they** の事です。**人称代名詞**には **1 人称**、**2 人称**、**3 人称**があり、それぞれ**格変化**をします。また、**単数・複数**にも注意が必要です。

●格変化

代名詞は**主格**、**所有格**、**目的格**という**格変化**をします。**主格**とは主語になる格、**所有格**は名詞の前におき所有を表現する格、**目的格**は目的語として入れる格のことです。**所有格**だけは単独で使うことはできず、後ろに名詞を伴います。**所有代名詞**は**単独**で使う事ができ「**～のもの**」という意味になります。**再帰代名詞**は主語と同じ**内容**を**目的語**や**前置詞句**として表現する際に使い「**～自身**」という意味になります。

一人称：

	主格	所有格	目的格	所有代名詞	再帰代名詞
単数	I 「私は」	my 「私の」	me 「私に」	mine 「私のもの」	myself 「私自身」
複数	we 「私達は」	our 「私達の」	us 「私達に」	ours 「私達のもの」	ourselves 「私達自身」

二人称：

	主格	所有格	目的格	所有代名詞	再帰代名詞
単数	you 「あなたは」	your 「あなたの」	you 「あなたに」	yours 「あなたのもの」	yourself 「あなた自身」
複数	you 「あなた達は」	your 「あなた達の」	you 「あなた達に」	yours 「あなた達のもの」	yourselves 「あなた達自身」

三人称：

	主格	所有格	目的格	所有代名詞	再帰代名詞
単数	he 「彼は」	his 「彼の」	him 「彼に」	his 「彼のもの」	himself 「彼自身」
単数	she 「彼女は」	her 「彼女の」	her 「彼女に」	hers 「彼女のもの」	herself 「彼女自身」
単数	it 「それは」	its 「その」	it 「それに」	its 「そのもの」	itself 「それ自身」
複数	they 「彼らは、 それらは」	their 「彼らの、 それらの」	them 「彼らに、 それらに」	theirs 「彼らのもの、 それらのもの」	themselves 「彼ら自身、 それら自身」

I met him at his house yesterday. 「私は昨日彼の家で彼に会いました。」

人称代名詞 (主格)

I 「私は」

人称代名詞 (目的格)

him 「彼に」

人称代名詞 (所有格)

his 「彼の」

They told me about her plan. 「彼らは私に彼女の計画について話してくれました。」

人称代名詞（主格）

they 「彼らは」

人称代名詞（目的格）

me 「私に」

人称代名詞（所有格）

her 「彼女の」

All the computers in this room are mine. 「この部屋の全てのコンピュータは私のものです。」

所有代名詞

mine 「私のもの」

He considers himself a pop artist. 「彼は彼自身のことをポップアーティストと考えています。」

人称代名詞（主格）

he 「彼は」

再帰代名詞

himself 「彼自身」

注意：所有格の前に冠詞(a/an, the)や指示代名詞(this, that, these, those)などをつけることはできません。



This is my vacuum cleaner. 「これは私の掃除機です。」



This is a my vacuum cleaner.

●一般の人を意味する代名詞 : we, you, they

一般の人を意味する代名詞	意味
we	自分だけでなく聞き手やそれ以外の第三者も含む一般の人々。
you	相手を含めた人々一般のことを意味します。
they	自分も相手も含まない漠然とした誰かのことを意味します。

- ・自分を含めた人々一般

We will have a little rain this afternoon. 「午後に少し雨になるでしょう。」

- ・相手を含めた人々一般

You will never know what will happen tomorrow.

「明日に何が起きるかなんて誰にもわからないよ。」

- ・自分も相手も含まない漠然とした誰か

They say people change. 「俗に人は変わるって言うよね。」

●代名詞 it の特別な使い方

it は**時、天候、明暗、距離**などを表す**代名詞**として使われます。

It is three o'clock. 「三時です。」

時を表しています。

It is warm today. 「今日は暖かいです。」

天候を表しています。

It is getting dark. 「暗くなってきました。」

明暗を表しています。

It is about two miles to Tokyo from here. 「ここから東京まで約2マイルです。」

距離を表しています。

他にも**形式主語**や**形式目的語**として使われることもあります。

It was easy for me to answer the question.

「私にとってその質問に答えることは簡単なことでした。」

it が **to answer the question** を受ける**形式主語**となっています。

注意：この文では **to answer the question** が意味上の主語となりますが、**it** がこれの代わりに文頭で主語になっています。このような **it** の使い方のことを**形式主語**と呼びます。

I found it easy to answer the question.

「私はその質問に答えることは簡単なことだと思いました。」

it が **to answer the question** を受ける**形式目的語**となっています。

注意：この文では **to answer the question** が **find** の意味上の目的語となっています。この代わりに **it** が **find** の目的語として入れられています。このような使い方を**形式目的語**と呼びます。

■ Topic2

不定代名詞

one, another, other, some, any, none, all, each, every などは**不特定の人や物**の事を意味する**代名詞**として使われます。これらの中には形容詞としての使い方があるものもありますが、似た考え方をするため**不定代名詞**といっしょに形容詞の例も説明します。

●one/another/other

・one

特定のグループの中の1人、1つをさします。

How about a glass of wine? I'll have one, too.

「ワインを1杯いかがですか？私も1杯飲みますので。」

注意：I'll have it, too. 「私もそれを飲みます。」という文も可能ですが、こうするといくつかある中の1つではなく「それ」そのものの事を意味します。

one と it	意味	例文
one	いくつかある中の1つ	I would like to order one. 「1つ注文したいです。」
it	特定の一つの物	I like it. 「私はそれが好きです。」

注意：複数の物をさす場合はそれぞれ **ones** や **they** (ここでは目的格なので **them**) を使います。

・ another

another は「**もう1つ (1人)**」の意味となります。名詞の前につけ形容詞として使われることもあります。

You can buy this new laptop computer for just 10,000 yen now. If you miss this chance, you will never get another. 「今ならこの新しいノートパソコンを10,000円で買えますよ。この機会を逃したら、もう一度(チャンス)はありませんよ。」

注意：この文の **another** (代名詞) は **another chance** 「もう1つのチャンス」という意味で使われています。

I would like another cup of coffee. 「私はコーヒーがもう一杯欲しいです。」

another (形容詞) + **cup** (名詞) 「もう一杯」は今まで飲んだ分とは別にもう一杯欲しいという意味になります。

・ other

other は形容詞で「別の、他の」などの意味になり、代名詞としては「他の人、他の物」の意味となります。**the other** とすると「**その他の人や物、残りの人や物**」の意味になります。

I don't care about others. 「私は他人のことは気にしません。」

others は世間一般の「他人」の意味です。

I want the red one, the yellow one and some of the other ones.

「私は赤いのが1つ、黄色いのが1つ、その他のもいくつか欲しいです。」

the other は全体の中から **the red one, the yellow one** を抜いた他のものを意味しています。

●some/any/none

基本ルールは **some** は**肯定文**、**any** は**否定文**と**疑問文**と覚えておくが良いです。ただし、**some** も疑問文に使うことがありますし、**any** も肯定文に使うことがありますが、意味が少し異なります。**none** は肯定文で使うと否定の意味になります。

・ some

some 「いくつかの物/人、多少の物/人」は、ある程度の量・数があるということにポイントがあります。名詞の前につけ形容詞として使われることもあります。

A: Do you know any good book about statistics? 「統計学についての良い本を知りませんか？」

B: I know some. 「私は数冊知っています。」

some は「いくつかの物」（代名詞）という意味です。

疑問文で使われる **any** はあるかないかを尋ねる意味に使います。

I have some money. 「私は多少のお金を持っています。」

some 「いくつかの、多少の」（形容詞） + **money** 「お金」（名詞）で「多少のお金」という意味です。

注意: Do you have some money? 「お金ある？」のように疑問文で使うこともできます。一方、**any** を使い **Do you have any money?** とすると「少しでもよいからお金ありますか？」という意味になり異なるので注意が必要です。

・ any

any は「どれも、誰でも」（**肯定文**）、「誰か、いくらか、少しでも」（**疑問文**）、「どれも、誰も」（**否定文**）の意味に使われます。名詞の前につけ形容詞として使われることもあります。

I want any of these. 「私はこれらの中のどれでも良いので欲しいです。」

肯定文の **any** は「どれも」（代名詞）という意味で使われています。

Do you have any of these? 「あなたはこれらの少しでも持っていますか？」

疑問文の **any** は「少しでも」（代名詞）という意味で使われています。

I don't want any of these. 「私はこれらのどれも欲しくありません。」

否定文の **any** は「どれも」（代名詞）という意味で使われています。

We buy any computers. 「私達はどんなコンピュータでも買い取ります。」

any 「どんな～でも」（形容詞） + **computers** 「(複数の) コンピュータ」（名詞）となっています。

・ none

none 「どれも～ない、誰も～ない」は代名詞の使い方しかありません。

I want none of these. 「私はこれらのどれも欲しくありません。」

none は「どれも～ない」(代名詞) という意味で使われています。

I have met none of her relatives. 「私は彼女の親戚には誰も会ったことがありません。」

none は「誰も～ない」(代名詞) という意味で使われています。

注意 : **物を意味**する **something, anything, nothing** や **人を意味**する **someone, anyone, no one** なども、意味は異なりますが、**some/any/none** と同様の使い方をします。

I want something to drink. 「私は何か飲み物がほしいです。」

● all / each / every

・ all

3人以上、3つ以上の物をさし「すべて」の意味になります。

All of the tables are reserved. 「全てのテーブルは予約されています。」

注意 : **All tables are reserved.** 「全てのテーブルは予約されています。」のように、名詞を修飾する場合の **all** は形容詞となります。

・ each / every

each は「おのおの、それぞれ」と **every** 「全ての」の意味になりますが、両方とも**単数扱い**をします。

Each of us must understand the need for better communication in our office. 「私達めいめいが私達の事務所内でのより良いコミュニケーションに対する必要性を理解しなければなりません。」

Every student attended the seminar. 「全ての学生がそのセミナーに参加しました。」

注意 : **every** のままでは形容詞ですが、**everybody** 「みんな、全ての人」, **everything** 「すべてのこと」などとすると**代名詞**になります。

注意 : **all** 「すべての」は **every** と似ていますが、数えられる人や物を意味する時は **all** は複数扱いをしますが、量を意味する場合は単数扱いにします。

複数扱い : **All of us were happy to hear the news.**

「私達はみんなそのニュースを聞いてうれしかったです。」

単数扱い : **All of the equipment was outdated.** 「全ての機器類は旧式でした。」

■ Topic3

指示代名詞

this 「これ」、**these** 「これら」、**that** 「それ」、**those** 「それら」なども**代名詞**として使われます。**人や物のことをさす意味**に使われます。**this** と **these** は**時間的、距離的に近く**にあるもの、**that** と **those** は**時間的、距離的により遠く**にあるものをさす意味に使います。

This is a pen. 「これはペンです。」

this は「これ」と物をさしています。

That is Dr. John Gilbert. 「あの人はジョン・ギルバート博士です。」

that は「あれ（あの人）」と人の事をさしています。

スコアアップ！

(DVD 版のみ収録)



例題 : One of the executive members said that ___ would not agree with the reform plan.

- a. it
- b. he
- c. her
- d. them

b. he が答えとなります。主節の主語は **one of the executive members** 「重役の1人」となっています。**that** 節内を見てみると **would not agree** 「合意しない」という意味になっています。ですので、**that** 節内の主語には人を意味する名詞が入り、ここでは **one of the executive members** を受ける代名詞（主格）となります。従って主格の代名詞である **he** が適切なのです。

a. it 「それ、それを」には主格と目的格がありますが人の事をうけないのでダメです。**c. her** 「彼女の、彼女に」は所有格か目的格なので主語としては使えません。**d. them** 「彼らを、それらを」は目的格の代名詞ですので主語にすることはできません。

One of the executive members said that he would not agree with the reform plan.

「重役の1人はその改革案に合意しないと言いました。」

いろいろな **we** の使い方：

い **Yes, we can.** 「そう！私達ならできる。」

オバマ大統領の演説の中でよく使われたフレーズですが、この **we** は「私達」という意味ですが話し手は聞き手を「私達」の中に引き込もうとしています。このように **we** を使うことで相手と自分はいっしょであるという一体感を演出できます。

同じ **we** も **Yes, we can, but you cannot.** 「私達はできるがあなたにはできない。」 **Yes, we can, but they cannot.** 「私達はできるが彼らにはできない。」のように自分たちにはできるが他の人達にはできないという意味に使うこともできます。このように使うと自分たちと他の人達の違いを意識させる表現です。

時々 **we** は微妙で誰のことを意味するのか分からないこともあります。例えば、**We went shopping last weekend.** 「先週末、私達買い物に行ったんだ。」の **we** は相手と誰かのことであることは分かってても誰のことかは分かりません。本当は **I went shopping with my mother last weekend.** 「先週末、私はお母さんと買い物に行った。」ということかもしれません。

we は単純な単語ですが意外と奥が深いですね。**Yes, we can understand it.** 「そうです。私達なら理解できます。」

コーヒースタンプ (DVD 版のみ収録)

Wrap-up

- 人称代名詞は格変化が重要
- **it** と **one** の違いなどを理解しておくこと。
- 不定代名詞の中には形容詞にもなる物が多い



Anyone worth his salt would have this.

「できるヤツはみんなこれを持ってるよ」

不定代名詞 anyone 「誰にも、誰でも」	人称代名詞 (所有格) his 「彼の」	指示代名詞 this 「これ」
主語 代名詞+形容詞+ 代名詞+名詞 anyone worth his salt 「有能なら誰でも」	述語動詞 助動詞+動詞 would have 「持ってるだろう」	目的語 代名詞 this 「これ」

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. One of their lawyers told _____ about the scandal.
 - a. mine
 - b. his
 - c. her
 - d. it
2. Nobody will find _____ difficult to operate this program.
 - a. it
 - b. him
 - c. himself
 - d. them
3. A friend of _____ told me about their merger.
 - a. I
 - b. my
 - c. me
 - d. mine

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. Some people say bad things tend to happen one after _____.
 - a. it
 - b. anyone
 - c. another
 - d. the other
2. _____ is getting warm this time of year.
 - a. I
 - b. It
 - c. She
 - d. They
3. When I went to the store to buy more memory sticks, there weren't _____ left.
 - a. one
 - b. any
 - c. some
 - d. every

Explanation - Practice

1. One of their lawyers told her about the scandal.

「彼らの弁護士の中の1人が彼女にそのスキャンダルについて話しました。」

解説：c. **her** (目的格) が **told**「話した」(動詞の過去形) の目的語に入ります。tell 人 about ~ で「人に~について話す」の意味になります。これは **tell** の **SVO** 型の使い方です。つまり、下線部には目的語として入れられる**目的格**のものを選ぶ必要があるのです。

a. **mine** 「私のもの」(所有代名詞) や b. **his** 「彼の」(所有格) を目的語として入れることはできません。d. **it** は主格か目的格となるので、目的語として入れることは可能ですが **it** は物や動物をうける代名詞なので意味的に不自然です。

2. Nobody will find it difficult to operate this program.

「誰もこのプログラムを操作するのが難しいと思わないでしょう。」

解説：a. **it** 「それを」(目的格) が答えです。to operate … を受ける**形式目的語**となっています。このレッスンで学習したように、**it** には**形式目的語**として利用する特別な使い方があります。

b. **him** 「彼に、彼を」(目的格)、d. **them** 「彼らに、彼らを」(目的格) は目的語になることはできませんが、意味が通る文になりません。**nobody** を **he** で受けることはできるので、主語とのつながりで判断すれば c. **himself** 「彼自身」(再帰代名詞) を目的語にすることは可能です。でも、**difficult to operate this program** を後ろにつけることはできません。もし、**himself** をここに入れると、この **find** は **SVOC** 型なので **himself = difficult to operate the program** ということになってしまいます。これでは意味が変になってしまいます。

3. A friend of mine told me about their merger.

「私の友人の1人が私に彼らの合併について話してくれました。」

解説：d. **mine** 「私の」(所有代名詞) が答えです。a **friend of mine** で「私の友人」の意味になります。~ **of mine** が「私の~」の意味になります。

a. **I** 「私は」(主格) や b. **my** 「私の」(所有格) ですが、前置詞(**of**)には主格や所有格の代名詞をつけることはできません。所有格に名詞をつけ **a friend of my father** などとすることは可能です。c. **me** 「私に」(目的格) は **of** につなげることは可能ですが、**a friend of** ~につなげることはできません。

Explanation - Homework

1. Some people say bad things tend to happen one after another.

「悪いことは次々に起こると言う人達があります。」

解説：c. **another** 「もう一つ、もう1人」(代名詞) が答えです。**one** と同様のもう一つの何かをさす意味の単語を選びます。**one after another** で「次々と」という意味になります。

a. **it** 「それは、それを」(主格、目的格) は具体的な何かをさしますが、文中にそのような物は出てきていません。b. **anyone** 「誰でも」(不定代名詞) では意味が通りません。d. **the other** は「(2つのうちの) もう一方の人や物」となりますが、そうすると、あらかじめ分かっている特定の何かを意図し

ているようになってしまい、意味が不自然となります。

2. It is getting warm this time of year. 「この季節になると暖かくなってきます。」

解説：暖かくなってきたと天候について述べているので、天候を意味する **b. It it** が答えです。

this time of year 「この季節になると」がカギとなり、**a. I** 「私は」(主格) **c. She** 「彼女は」(主格)、**d. They** 「彼らは」(主格) では意味が通りません。

3. When I went to the store to buy more memory sticks, there weren't any left.

「もっとメモリスティックを買うためにお店に行った時、1つも残っていませんでした。」

解説：**b. any** が答えです。**any** は否定文では「少しも」(代名詞) の意味になります。**there weren't any left** で「少しも残っていない」ということから「1つも残っていなかった」という意味になります。**a. one** 「1つの人、物」(代名詞) は複数形の動詞(ここでは **weren't**) に付けられません。**there wasn't one** と単数形なら可能です。基本的に **c. some** 「いくつかの人、物」(代名詞) は否定文には使いません。**d. every** 「全ての」(形容詞) は単数を扱う形容詞です。また、後ろには修飾する対象となる名詞が必要です。